

千葉県立中央博物館

春の展示「九十九里浜の自然誌」

開催期間：2021年3月23日（火）～2021年4月7日（水）

※自主事業開催期間：2021年4月8日（木）～2021年5月30日（日）



【企画展の内容・目的】

- 約 60 kmにわたり連続する長大な九十九里浜の存在は、よく知られていますが、そこにどのような生き物が息づいているのか、どのような不思議な現象が見られるのか、浜からどのような恵みを得てきたのかは、あまり知られていないのではないのでしょうか。そこで、九十九里浜の自然を多数の資料や写真、動画等を用いて多角的にかつ網羅的に展示し、九十九里浜の自然について改めて学んでいただく企画にしています。また一方、九十九里浜は深刻な侵食が起こりつつあり、これから自然そのものも変化していくかもしれません。そのような現状についても展示を通じて紹介します。
- シンポジウム「九十九里浜の侵食を考える」では、九十九里浜の侵食について、ご造詣の深い講師に講演をしていただき、九十九里浜の侵食やその対策、問題点について語っていただいています。九十九里浜の侵食の現状を、侵食対策に関わっている学識経験者から直接聞くことのできる機会となることを期待しています。
- 変わりゆく九十九里浜の姿や自然について知り、海洋資源の持続可能性や全国的に起こっている侵食についても学ぶきっかけを作ることも目的にしています。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2021年3月23日（火）～2021年4月7日（水）

※自主事業開催期間：2021年4月8日（木）～2021年5月30日（日）

■開催場所：千葉県立中央博物館 企画展示室

■入場者数：2097人（4月7日現在）



会場入り口

会場に入って、まず来場者を迎えるのが、アカウミガメのはく製です。普段は海に棲むアカウミガメは産卵の時だけ砂浜に上がり、卵を産みます。アカウミガメのような生き物にとっては、砂浜が、なくてはならない繁殖場所であることを、まずここで学びます。



次のコーナーは、九十九里浜がどうやってできたのか、その地史についての解説です。九十九里浜を持つ九十九里平野は、7000年前は海であったこと、その後数千年にわたり砂が堆積して陸になったことを、地面を掘って取り出した土砂の標本（ボーリング・コア）で知ることができます。砂浜は、ただの平原ではなく、平たいところもあれば、砂丘になっているところもあり、変化に富むが、それらは主に波と風で作られることもそこで知ります。

浜の地史や地形の次は、生き物たちの登場です。まず現れるのは、砂丘に暮らす植物たちです。砂浜は、潮風が吹いたり、砂が飛んできたりと、植物にとって過酷な環境です。砂丘には、砂丘でしか見られない植物がいることを学びます。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



植物の次に登場する生き物は、鳥たちです。海をえさ場とするもの、砂浜で卵を産んで繁殖するもの、遠くから訪れる珍客など、様々な野鳥に浜では出会えます。普段は近づくことのできない鳥たちの姿をはく製でじっくり見ることができます。

生き物動画のコーナーでは、大きなモニターで、浜の動物たちの生きている姿を見ることができます。フジノハナガイが、砂の中から飛び出てくる様子にはびっくりさせられます。

鳥たちの次に登場するのは、クジラのなかまです。浜の沖にはスナメリという小型のクジラが棲んでいます。浜には、スナメリのほか、いろいろなクジラ類が打ちあがります。

大きなクジラの後には登場するのは、魚や貝、カニたちのたくさんの標本です。砂浜は、うろついていると鳥などにつかまってしまいうために、普段は砂や海の中に隠れています。九十九里浜にこんなにたくさんの生き物がいるとは、意外に思うかもしれません。



砂浜に落ちている漂着物などからも、自然の息吹を身近に感じることができます。はるか南から漂着したゴバンノアシと呼ばれる木の実や「砂茶碗」と呼ばれる貝の卵、今問題になっているプラスチックゴミまで集めました。

奥の壁には、浜で見られる蟹気楼など、いかにも「映え」そうな、珍しい景色を集めました。海岸は、陸と海が出会う場所です。陸の空気と海の空気が出会うと、不思議な現象が現れます。九十九里浜で見られる蟹気楼をまとめた動画も用意しました。



九十九里浜の恵みのコーナーでは、浜から得てきた恵みについて学びます。浜ではイワシ漁が有名ですが、いわしは単に食べるために獲っていたわけではなく、江戸時代には、綿栽培の肥料としてとても重宝されていたこともここで知ります。いわしとともに、浜で獲れるはまぐり（チョウセンハマグリ）は有名ですが、ながらみ（ダンバイキサゴ）等他にもおいしい貝が獲れることも紹介しています。

最後のコーナーは、今九十九里浜で進行している侵食の問題を取り上げています。侵食が進むと、砂浜自体がなくなると思っている方が多いと思われるのですが、実は、人が全く関与しないと、砂浜がなくなるとはほとんどありません。砂浜は、陸側へ後退する十分な余裕があれば、砂浜自体がなくなるとはなく、かえって、侵食を阻止しようとする、砂浜が消えることがあることをここで学びます。

【来館者の声】

○海の生物が意外とかわいらしく興味を持ち、もっと詳しく学びたいと思いました。

○海には多くの生き物たちが住んでいて、とても大切だと思った。

○自然のメカニズムで砂浜の前後（するの）は当然のことで、人工的に手を加える事による弊害の方が大きいということ。

○いろいろな生き物が生息していることを学べ、より海への関心が深まったように思います。

○九十九里浜の砂浜がきれいに残ってほしい。

2. 関連事業の内容

■シンポジウム「九十九里浜の侵食を考える」

【開催日時】2021年3月28日～5月12日（視聴者募集期間）

【開催場所】You Tubeにて視聴希望者に配信（定員なし）

【視聴者数】34人（2021年4月7日現在）

【実施内容・目的】

- 現在進行中の、九十九里浜の侵食の問題について、千葉県九十九里浜侵食対策検討会議委員を務められている、土木研究センターなぎさ総合研究所長宇多高明氏に、現在の状況とその対策、問題点などを講演していただいた。
- 当初は、千葉県立中央博物館の講堂で講演をしていただく予定だったが、新型コロナウイルス予防のため、オンライン会議アプリを使用したの講演とし、その録画を配信する方法に変更した。録画では、博物館の職員数人が視聴者として登場していて、最後に講演者と職員で質疑応答を行った。



講演視聴の申し込み画面
(中央博物館のWebサイトより)



講演のタイトル



講演の紹介



講演の様子

宇多先生は、九十九里浜を訪れ、各地で起きている様々な問題を取り上げ、今後の対策や問題点をわかりやすく解説されている。視聴された方は、専門家の語る解説から、将来の九十九里浜について、深く考えるきっかけを得たものと思われる。

【事業全体のまとめ】

新型コロナ禍のため、様々な制限の中での準備作業と開催になったが、本助成のおかげで、九十九里浜の自然についての展示をおそらく今までにないほどの規模で開催することができた。多数の資料やパネル、写真、動画と多角的かつ網羅的に九十九里浜について紹介していることから、来場された方は、九十九里浜のみならず、浜と海について今まで以上に関心を持っただけでなく、海辺に出かけて、生き物を探したり、沖を眺めて蟹気楼を見つけようとしたりするきっかけ作りに大いに貢献したと思われる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 海の駅九十九里いわし資料館	資料借用
2. 関東天然瓦斯開発株式会社	資料借用
3. NPO 行徳自然ほごくらぶ	資料提供
4. 九十九里町	資料提供
5. 九十九里町教育委員会	資料借用
6. (国研) 産業技術総合研究所	資料借用
7. 千葉県野鳥の会	資料提供
8. 千葉市野鳥の会	資料提供
9. 銚子野鳥同好会	資料提供
10. 日本環境災害情報センター	資料提供
11. 日本野鳥の会石川	資料提供
12. 水鳥研究会	資料提供
13. (一般財団法人) リモート・センシング技術センター	資料提供

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 福利ちば Vol. 242	県立中央博物館 春の展示「九十九里浜の自然誌」 2021年3月
2. 県民だより 第517号	県立中央博物館 春の展示「九十九里浜の自然誌」 2021年4月5日

以上